

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901431		
法人名	有限会社 ポプラ		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	旭川市春光4条9丁目6番12号 (電話) 0166-54-6944		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】 (20年11月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16人, 非常勤 3人, 常勤換算	11.0人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 19,000円(6~9月) 26,000円(10~5月)
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要 (11月 12日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	10 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.1 歳	最低 66 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島病院、並木通クリニック、神居歯科診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに商店街があり、住宅街の中で普通の生活が実感できる立地条件が整っており、生活しやすい環境に位置している。ホーム全体も明るく、衛生管理が行き届き、安心感のある家庭的なホームとなっている。運営法人は高齢者ハウス2カ所を開設し、幅広い知識が培われている。利用者の嗜好や旬の食材など「食」を通じた楽しみ、薬に頼らない生活への取り組みなど、利用者の安心・安全な生活を追求し、利用者本位のケアの実践に向け懸命に努力を重ねられている。また、ホームの地域での役割や責任を自覚し地域貢献に意欲を示されており、今後の活動が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義やねらいを職員全員で理解し、職員の意見を管理者が総括して評価活動に取り組んでおり、結果は職員に周知している。前回外部評価の改善課題は職員全員で話し合いがもたれ、サービス向上を目指す前向きな姿勢が窺える。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の全員参加により、ケアサービスの振り返りを行ない、自己評価に取り組まれている。今回の検討により問題点を意識し、今後に向けて前向きな姿勢となっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議が開催され、ホームの概要や運営状況、年間行事などが報告されている。また、昼食の試食やホームの行事に参加いただきホーム運営の理解が深まっている。評価の結果と取り組みの状況、また、地域ぐるみの防災対策など、地域密着型サービスとしての役割を目指した幅広い内容の意見交換となるよう期待する。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回の家族会の開催時に意見や要望を聞いたり、日頃から家族との交流を図り、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。意見や要望をいただいた際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の清掃活動、地域の行事に職員も利用者とともにできるだけ参加している。ホームのあじさい祭りには、町内会役員の方々に協力をいただき、近隣の方々にも参加いただいている。また、管理者は地域でホームの存在や理解を深めていただくため、日頃より近隣の方からの相談や協力を行ない、地域住民の方々とのふれあいを大切にしている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間への深い愛と理解」、「社会の福祉に対する奉仕」の二大理念の下、利用者の尊厳を大事にしたサービスの追及に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の日常的な指導のもとで、職員は理念の本質を理解し共有を図り、ケアサービスの提供が行なわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動、地域の行事に職員も利用者とともにできるだけ参加している。ホームのあじさい祭りには、町内会役員の方々に協力をいただき、近隣の方々にも参加いただいている。また、管理者はグループホームへの認識と理解を深めていただくため、日頃より近隣の方からの相談や協力を行ない、地域住民の方々とのふれあいを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらいを職員全員で理解し、職員の意見を管理者が総括して評価活動に取り組んでおり、結果は職員に周知している。前回外部評価の改善課題は職員全員で話し合いがもたれ、サービス向上を目指す前向きな姿勢が窺える。		

旭川市 グループホーム あじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議が開催され、ホームの概要や運営状況、年間行事などが報告されている。また、昼食の試食やホームの行事に参加いただき、ホーム運営の理解が深まりつつあるが、運営推進会議の内容は、報告事項が主となっている。	○	会議の内容は報告や情報交換にとどまらず、地域からの協力事項や地域への災害時の協力依頼、さらには、今回の自己評価や外部評価の結果も議題に含めながら、改善経過のモニター役を担っていただくなど、協議内容の充実への取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、管理者会議に積極的に参加するとともに、行政担当窓口にご相談や情報収集に努め、ホーム運営に役立てるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2～3ヵ月毎に「あじさい便り」を発行し、利用者の写真を掲載し、日頃の様子や行事などを伝えている。家族の来訪時に、日々の暮らしぶりや心身状況を伝え、来訪できない家族には電話や便りにて伝えている。金銭出納簿は毎月家族に明細を明らかにし、家族の了解をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の開催時に意見や要望を聞いたり、日頃から家族との交流を図り、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。意見や要望をいただいた際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の十分な引き継ぎや新任者の紹介など、利用者一人ひとりに合わせた説明方法を工夫するなど、利用者への影響を最小限に防ぐ配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内の研修会などには、勤務シフトの調整を行なうなど、配慮がされておりスキルアップに努めている。管理者の指導の下、職員の言葉づかい、行動などの気づきを早期に改めるなど、徹底した対応がされているが、さらなるサービス向上のため、接遇についての改善の必要性を感じている。	○	今回の自己評価の取組課題の一つとして、職員の質の向上を掲げている。利用者への対応はもとより、家族への良い対応(おもてなしの心)ができるよう、職員全員が社会人としてのマナーや接遇を身につけ、ホーム全体のサービスの質向上に繋がっていくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら、情報収集や意見交換を行なっている。また、ほかのホームと協働しながら、ケアの質の向上に積極的に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	時間的配慮も行ないながら、急ぐことなく利用者との馴染みの関係を構築し、利用者や家族が安心して納得していただけるよう、適切なサービス開始の調整を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれている。職員は利用者とともに過ごす中で、年長者から学ぶ姿勢を保持し、生活の知恵や知識に触れる場面作りを行ない、協働作業や会話を通して、感謝の意や尊敬の念を表わしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴や環境、家族構成などの情報を収集するとともに、利用者の日々の言動や表情から、思いや願いを読み取り、利用者本位に検討し把握に努め、共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	状況把握に職員全員で係わり、課題の把握に努め、日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。また、家族や利用者の思いや意向を取り入れ、職員が意見を出し合いながら、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直し、また、利用者の状況や状態の変化などにより見直しを行ない、職員と話し合いながら、ケアに反映させているが、日々の記録が経過のみの記録となっている。	○	日々の記録は経過のみを記すのではなく、介護計画に基づいた実践を行ない、その実践結果、気づき、様子などの記録となるよう書式の工夫や整備を期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じ受診の支援、買物や外出など、ホームで行なえるサービスを柔軟に行なっている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の状況に応じて、希望するかかりつけ医への受診支援を行ない、柔軟に対応し、職員が通院介助をした際は受診結果などを記録し、家族に伝えている。また、医療連携加算の指定を受け、24時間安心できる体制を整備している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームに入居する際に、利用者、家族に対して終末期における方針をよく説明して、納得いただいている。既に看取りの経験もあり、重度化や終末期にあつては、利用者、家族、医師、管理者及び職員が方針を共有しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いや、利用者の尊厳を損なうことがないよう、職員全員が共有し、ケアサービスに取り組んでいる。面会簿もカード式になっており、プライバシーに配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切にした、その人らしい生活を送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際には、職員が同席し楽しく食事出来るよう支援している。利用者の希望や季節感のある食材を用いた献立を作るよう努めている。食事の準備や後片付けなど、利用者の得意なこと・関心のあることを把握し、楽しみごととなるよう支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や入浴日が一応定められているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、利用者一人ひとりの習慣や状況に合わせて、見守りや介助などの入浴支援をしている。また、全身シャワー浴が出来る設備もあり、車椅子の利用者に喜ばれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや趣味を活かせるように支援しており、食事の準備や片付けなど、生活歴を活かした役割、レクリエーションなどの楽しみごとの実施によって、日常の暮らしに張り合いや喜びを見出せるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、通院への付き添いなど、利用者の状態に応じて、外出を楽しめる支援を行なっている。また、ホームに隣接した畑には、水やりや収穫時に一緒に出かけ、成長の楽しみを持てるように支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子が見られる時には、さりげない声かけや見守りが行なわれている。		

旭川市 グループホーム あじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただいての定期的な防災訓練が実施され、利用者も参加し、不測の事態に備えている。また、救急救命などの実践的な研修も行なっているが、夜間想定避難訓練や災害時の近隣住民の協力体制確立までには、至っていない。	○	利用者の安全をより確実なものとする為にも、人手が少なくなる夜間想定避難訓練は必要であり、また、近隣住民の方々の協力も不可欠であることから、運営推進会議などでの協力体制確立への取り組みを期待する。また、指定の緊急避難場所を家族に周知するよう期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量、食事量などは、個別に記録され職員が情報を共有している。また、利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じて調理方法も工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節を感じる事の出来る飾り付けが行なわれ、清潔でゆったりしており、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光なども適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者を使い慣れた馴染みの家具や装飾品、利用者によっては仏壇や植物が持ち込まれ、家庭の延長的雰囲気の中で、安心して暮らせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。